

Ⅱ 浅海増養殖試験事業*

1 1995年度養殖魚類等の病害発生 ならびに対策状況

服 部 未 夏・小 川 健

目 的

持込病魚等の検査・診断を行ない、海面魚類養殖における適切な魚病対策を指導する。

方 法

調査依頼のあった病魚等について常法により細菌・寄生虫検査を行ない症状観察と併せて診断し、分離菌は必要に応じてディスク法による薬剤感受性試験を実施した。

結 果

1995年度の総検査件数は94件で、全て海産魚であった。

魚種別、月別病魚検査件数を表1に、これを基に、現場での観察や聞き取り調査等と併せて作成した県内魚病分布を図1に示した。

ブリでは連鎖球菌症の発生が最も多かった。1992年から田辺湾で見られている細菌性溶血性黄疸は本年度は見られず、また白点病による被害も見られなかった。

マダイでは、イリドウィルス感染症が昨年と同じく田辺湾にみられ、0年魚の発病小割で被害率5.7~70%、また県下全体では4,450万尾中5.8%にあたる257万尾が斃死した。また串本浅海漁場と田辺湾でマダイ稚魚にエピテリオシスチス症の発生が見られ、特に串本浅海漁場ではビバギナによるエラムシ症との合併症でかなりの被害を受けた業者もあった。

ヒラメではエドワジェラ症の発生が最も多く、被害率は7%であった。

トラフグでは、マダイ同様エピテリオシスチス症の発生が初めて確認されたが、大きな被害は受けなかった。

1995年度はイリドウィルス感染症の発生がマダイ以外の魚種でも見られ、被害率はシマアジ0年魚で90%、シマアジ1年魚で20%、インダイ1年魚で40~95%、スズキ0年魚で29.6%とどれも高い斃死率を示したが、ブリでの発生は見られなかったことが特記すべき事項であった。

なお、串本・古座地域浅海漁場の水深5m層に設置されたシーコムシステムからの1995年の水温データについて1994年と併せて図2に示した。1994年夏秋の異常高温が目立っている。

* 浅海増養殖試験事業費による。

表1 月別・魚種別病魚持込み件数

魚種	病名	1995年												1996年			
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月計			
ブリ	類結節症					1											1
	連鎖球菌症				2	2	2	1	2	1							10
	連鎖球菌症・類結節症			1													1
	酸欠								1								1
	小計			1	2	3	2	2	2	1						13	
マダイ	ヒブリア・滑走細菌合併症													1			1
	滑走細菌症			1													1
	イトワヅエラ症			1		1			1								3
	細菌感染症			2													2
	細菌性鰓症					1											1
	トリコデイテ症			1							1						2
	白点病				1	1											2
	エラムシ症			1													1
	エラムシ・エビテリオシス併発症				1	2											3
	エビテリオシス症			2	4	1											7
	トリコデイテ・イトワヅエラ合併症							1									1
	イトワヅエラ感染症					1	1	1									3
	不明							2									2
	小計			8	6	7	4	2		1	1					29	
ヒラメ	ヒブリア病			1													1
	ヒブリア・滑走細菌・イトワヅエラ合併症													2			2
	連鎖球菌症						3	1									4
	ヒブリア・滑走細菌合併症	1	1		1									1			4
	滑走細菌症													1			1
	イトワヅエラ症			2	1	1		3						2			9
	白点病				1												1
	イナシト症														1		1
	小計	1	1	3	3	4	1	3					5	3		24	
トラフグ	ヒブリア病							1									1
	細菌感染症				2												2
	トリコデイテ症							1									1
	トリコデイテ・キログラケルス合併症		1														1
	キログラケルス症	1		1													2
	ハテロボツリウム症			2													2
	エビテリオシス症			1													1
	不明							1									1
	小計	1	1	4	2		3									11	
シマアジ	イトワヅエラ・連鎖球菌合併症									1							1
	白点病								1								1
カンパチ	イトワヅエラ感染症								1								1
	ハテロボツリウム症																1
イシダイ	白点病			1													1
	イトワヅエラ感染症							2	1								3
スズキ	イトワヅエラ感染症								1								1
	イトワヅエラ感染症							1									1
中国産スズキ	イトワヅエラ感染症							1									1
	白点病			1													1
イサキ	イトワヅエラ症						1										1
	酸欠									1							1
マイワシ	酸欠									1							1
	ヒブリア病					1	1										2
	エビテリオシス症			1													1
	環境障害						1										1
	合計	2	3	18	14	17	14	12	3	2	6	3	1			94	

マダイ: G, EP
 ヒラメ: V, G, E
 トラフグ: V, H

ブリ: P, S
 マダイ: V, E, G, IV, E, Tr, C
 ヒラメ: V, S, E, G, C, Ic
 トラフグ: Ep, Tr, Gy
 インダイ: IV
 シマアジ: S, IV
 中国スズキ: IV
 スズキ: IV



図1 県内魚病分布

- | | | | |
|-------------|----------------|--------------|----------------|
| V: ビブリオ病 | P: 類結節症 | S: 連鎖球菌症 | E: エドワジェラ症 |
| G: 滑走細菌症 | IV: イリドウィルス感染症 | H: ヘテロボツリウム症 | Ep: エピテリオシスチス症 |
| Chi: キロドネラ症 | Tr: トリュディナ症 | Be: ベネディニア症 | Bi: ビバギナ症 |
| C: 白点病 | Ic: イクチオボド症 | Gy: ギロダクチルス症 | Eps: エピスチリス症 |

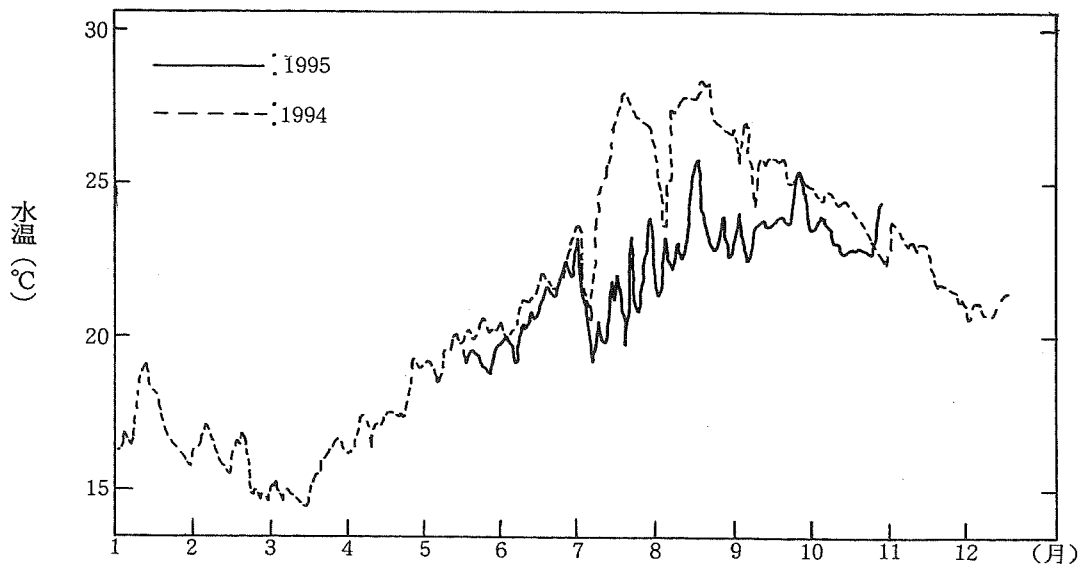


図2 串本浅海漁場 (5 m) 年間水温経過
 '95年1~5月, 10月~12月, 現地センサー故障